



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「夏の夜」 みらいる 共同制作 ※紹介が9ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 ～障害のある人の『働く』を支える～ P2～3
- ▶ 「平和」の危機の中で一層のとりくみを P4
- ▶ 平和の取り組み P5～6

2022年8月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践
 ～障害のある人の『働く』を支える～

第2回 トライズ

「クリーニング現場の実践」②

年齢を重ねても、挑戦・工夫・人との

関わりを求めて「働く」



【事業と定員】
 就労継続支援 A型 —15名
 就労継続支援 B型 —15名

■一般就労・回収現場
 (就労継続支援 A型) を経て

洗濯現場で働き続ける D さん
 最年長である 70 代男性の D さん
 は、中学 (特別支援学級) 卒業
 後、一般就労で物づくりの仕事に
 30 年携わりました。そして 40 代
 の時、資源回収事業部 (現トライズ)
 へ入職し、19 年間回収事業に従事
 してきました。

60 代を迎え体力低下・足の痛み
 が顕著となる中で、回収トラック
 の乗降が難しくなった D さん
 ですが、「働きたい」という気持ち
 に変わりはありませんでした。こ
 れまでの経験を活かせるような
 仕事を模索する中、洗濯事業の計
 画が浮上し、2015 年トライ

ズ立ち上げと共に就労継続支援
 B 型である洗濯現場へ移動しま
 した。「洗濯は家でした事あるけ
 ど、大きい洗濯機は使った事無く
 て不安だった」と振り返ります。
 不安を軽減できるよう、立ち上
 げ時見学に行った洗濯工場の動
 画を観て学ぶ機会を設けました。
 「面白そうだな。(業務用は) よう
 に入るな」とやる気が湧いた様
 子に、年齢を重ねても新しい事へ
 関心を持ち、取り組もうとする力
 を感じました。

み用治具も、色々と工夫を重ね現
 在の形へ辿り着きました。皆で工
 夫を考える時間も「楽しかった」
 と振り返る D さん。専用治具に
 自分の名前を書いて使う程のこ
 だわりがあり、治具一つに對して
 も「働く」という事への高い意識
 が感じられました。そんな D さ
 んですが、法人内の生活介護事業
 所から洗濯現場に移行してきた
 仲間たちと折り合いをつける事
 が課題となりました。職員が間
 に入って支援をするものの、D
 さんが我慢をする事が多く、
 不満が爆発する時もありました。
 半世紀働いてこられた D さん
 の思いに寄り添いつつ、他の仲間
 たちも不慣れな中、頑張っている

事を伝えてきました。洗濯機や乾
 燥機の出し入れ・納品の当番制を
 導入し、若い世代の仲間たちは自
 らできる事も増えている現状があ
 ります。また、D さんを見習い、
 仕事に集中する時間も増えていま
 す。D さんも「昔はやっとった
 よ。今は他の人に任せとる」と話
 し、「体力的にしんどい作業を他
 の仲間が担っている」という事が
 分かってきました。世代交代の中
 でお互いに少しずつ理解を示して
 いるのではないかと感じます。
 2017 年にお母様が他界さ
 れ、現在は兄夫婦と同居中です。
 ご家族と暮らす事が難しくなっ
 た場合を考慮し、通勤寮への入
 寮やグループホームの体験を経
 験してきました。比較的自立度
 の高い D さんにとって、共同生
 活での制限・周囲の動きや騒音、
 職員からの必要以上の声かけ等
 は負担になるようでした。職員と
 しては年齢を重ね体調の変化が
 気になる中、安心・安全な暮らし
 の在り方や緊急時に頼れる先を

増やせたらと日々悩みます。一方でDさんは「困り事がある」とは思いつつ、それなりに日々を送る事ができている為、慣れ親しんだ今の生活を変えたくない思いがあります。Dさんの思いを尊重しながら、社会資源の活用ができるよう提案・相談を行い、少しでも長くトライズの仲間として共に過ごせる事ができたらと思います。



美しい仕上がり

■自分の意志で「働く」事に責任を持ち、洗濯現場で力を発揮し、集団の中で成長するTさん
30代男性のTさんは養護学校高等部卒業後、みのり共同作業所に入所し、縫製現場やウエス現場で様々な経験をする中、高工賃を目指すようになりました。洗濯事業の立ち上げにあたり「やってみ

ようかな」と思った事や、「面白そうだから自分で決めたい」と教えてくれました。

立ち上げ時に洗濯現場へ移動したTさん。初めはたたみ作業に大苦戦でした。個人の洋服等の私物洗濯は「商品IIお客様物」「自分の服とは違い、しわを伸ばしながら決まった規格でたたみ上げる」という捉え方がなく、「サツとたたんで完成」という意識でした。職員がポイントを伝えながら一緒にたたむと、一時的にはできるものの継続が難しかった為、しわを意識して伸ばしながら一定のサイズに収まるよう、たたむ工夫を一緒に考えました。

Tさんは現在、たたみ作業では治具を3種類使用しています。下の洋服に使用する治具と併せて、しわを伸ばしながらたためるよう文鎮を使用しています。今では一つひとつゆっくり丁寧にたたむ習慣もつき、ほぼ直しが無い状態にまで仕上げています。様々な洗濯作業の中でTさんは、訪問入浴介護施設で使用するタオルの

たたみがお気に入りです。「面白い。好きよ」と言って、タオルの山に屈する事なくたたみ続け、枚数を数えてセットする事もできています。

洗濯現場の世代交代を見据えて、若手のTさんは任せられる作業が少しずつ増えています。洗濯機や乾燥機の当番はもちろん、納品も担います。納品時には、挨拶をしながら納品書を手渡す練習も始めました。どんな仕事でも前向きに「いや」と言いつて取り組むTさん。「たたみより納品の方が好き」と教えてくれました。気持ちの良い挨拶は長所の一つで、いつも皆へ「おはよう」「さようなら」「バイバイ(行って来ますや、行ってらっしゃいの代わり)」と、大きな声で伝えてくれます。「ありがとう」をたくさん伝えてくれるのも素敵な一面です。

働く中での大きな変化は、自分から他の人に話しかける場面が増えた事です。休日にゲームや映画を楽しんだ話をしてくれるようになりました。また周りで「おはよ

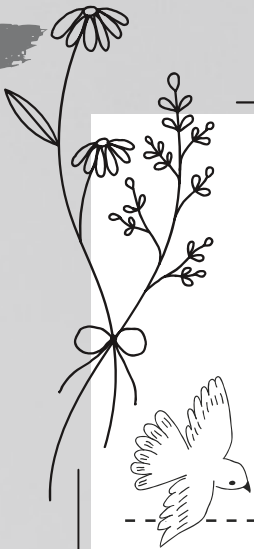
う」「こんにちは」等、挨拶のイントネーションを変えて遊んでいると、突然「ハロー」と思いがけない言葉を話し、皆ビックリして大笑いでした。周りの話もしっかり聞いており、興味関心のあるワードを拾って、やりとりを楽しむ場面が増えました。

これまでの経験をベースに、作業集団を通して成長をしている姿が著しいTさん。お母様によると、ご自宅でもランチョンマットのしわを伸ばすようになり、びっくりに喜んできてくださったっていました。色々なお手伝いもされているそうで、暮らしの場と働く場が繋がり、日々の中で経験が積み重ねられていると感じました。まだまだたくさん可能性を持っているTさん、これからも洗濯現場と一緒に成長をしていけたらと思います。

齋藤 広樹・清水 裕美



I love タオル♡



「平和」の危機の中で 一層のとりくみを

理事長 鈴木 清覺



今年は、あの悲惨な太平洋戦争の終結から 77 年目の夏を迎えます。アジア諸国で 2000 万人以上、わが国においても広島・長崎への世界ではじめての原子爆弾の投下による被害者を含め 300 万人以上の死者を出す、非人道的で悲惨な戦争でした。

戦争が、障害者やその家族に悲惨な被害をもたらすことは、世界や日本の歴史の教訓です。障害者の人権と幸せは平和であってこそ守られるものです。ゆたか福祉会は事業の創設以来「平和」をもっとも大切な「理念」として掲げて追及してきました。戦争が終結した 8 月は、毎年障害のある仲間たちとともに平和行進や学習会など多彩なとりくみを展開してきています。

今年 2 月に、戦後に世界で築きあげてきた国連憲章をはじめとしたあらゆる国際法とルールを無視し、ロシアのウクライナへの軍事侵攻が行われました。世界からの批判を受けつつ早 5 か月が過ぎようとしています。この間にウクライナ国内におびただしい被害をもたらしています。戦争からの避難民 1580 万人（国外 950 万人、国内 630 万人）、死傷者 1 万 2 千人（民間人）、とりわけ 270 万人といわれる障害のある人々はその安否も確認できない状態に置かれています。

私たちゆたか福祉会では、法人名での抗議声明の発表、全事業所でのカンパ活動、ウクライナを支援するための“関係者の集い”などにとりくんできています。

こうした事態の進行のなかで、日本の防衛力を強化せねばと、「核兵器の共有論」「憲法の平和条項」の改正、軍事の大増強などを現政権は推進しようとしています。また、これまで国としてきた「非核 3 原則」（核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」）のみなおしなど、戦争への危険が進行しています。

ゆたか福祉会が「理念」としてかかげてきた「平和」な社会の実現の意味が、改めて問われる局面にきているように思います。

ゆたか福祉会の 50 周年にメッセージを寄せていただいた、全障研の創設者でミネルヴァ書房から出版された『ゆたか作業所 - 障害者に働く場を -』（最近復刻版として出版）の編者・執筆者の清水寛氏（埼玉大学名誉教授）は、ゆたか福祉会の機関誌「障害者のゆたかな未来をめざして」を通読して、次のように述べています。

「ゆたか福祉会の活動の根底には『恒久の平和』（憲法の前文）をめざす思想が貫かれている。そして、障害者への偏見・差別をなくし、さらに『戦争につながる一切の構造的暴力を廃絶していく積極的平和』（Y. ガルトゥング）のとりくみを、仲間たちとの日々の生活と労働・発達保障の実践とむすびつけ追及しているところに重要な特色がある…」と。

「平和」をめぐる大きな危機の中で、私たちゆたか福祉会の関係者が改めてこうした評価に添えていく責任を強く感じるものです。



平和の取り組み

つゆはし作業所

平和学習会をしました

作業所では平和行進が行われる6月に、戦争や平和について学ぶ「平和学習会」を行っています。毎年、『かわいそうなぞう』という絵本をみんなで読みます。実際に日本であった、第二次世界大戦の中、戦争という人間の勝手な都合によって命を奪われてしまう上野動物園の動物たちの様子を知らることができます。

はじめての取り組みとして今年YouTube動画も利用しました。『ヒバクシャからの手紙』父との別れ』という動画は、原爆によって目の前で父親を失った男の子の、当時の空気が気持ちがリアルに伝わるものでした。また、絵本にもなっている『戦争のつくり方』の動画をみて、「政治家たちの意見で、いつ戦争がはじまるかわからない」「戦争がおきると国民全員が『戦争に勝つため』の道具となってしまう』ということ学びました。「命」よりも「国」が大切になってしまおうということがわかりやすく説明されました。さらに、ウクライナ抗争についてのニュースの動画を観ました。以前から自治会では「ウクライナへ募金をしよう」という声があがっており、準備を進めていました。海の向こうで今、戦争によって傷つけられている人がいることを、学習会を通して改めて考え、その後行った募金では多くの仲間の「力になりました」という気持ちが伝わりました。

仲間一人ひとりが戦争について真剣に向き合い、涙を流される方もいました。「戦争はだめだよ」「二度と繰り返してはいけない」という仲間の声を聞くことができ、来年は平和行進で「戦争反対!!」と叫びたいです。

池野真子



真剣に取り組む仲間たち



ゆたか生活支援事業所みどり

6.5 緑区平和の取り組み 戦争無くそう！平和を守ろう！

6月5日、平和行進実行委員会によるスタンディングに参加した仲間たちの大きな声で、緑区各所の会場で響き渡りました。日々、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻がメディアを飾り、目を覆いたくなるような現実がテレビで映し出されています。日本では軍事費拡大の動きも現実味を帯びてきていました。

そんな暗いニュースが溢れている世の中でも、ただひたすらに平和を願う仲間たちの姿がスタンディング会場にはありました。この日のために仲間が祈りを込め、丁寧に折った鶴をはじめとする折り紙が、主催である平和行進実行委員会の方々に届けられました。手渡した時に「届けてくれて本当にありがとう」とお礼を言ってくれた仲間のお礼を言ってくれた仲間の嬉しそうな笑顔は、平和が如

何に尊いものなのかを教えてくださいました。

一時間ほどでスタンディングは終了し、委員会の方から頂いたひまわりの造花をお土産に各ホーム帰路に着きました。今回のスタンディングをそのみで完結させず、仲間が平和について考えるきっかけにし、7月の参議院選挙の勉強会に繋がりました。今後もこういった企画には、仲間とともに積極的に参加していきたいです。

國島昂



沿道に立ち平和を訴えました





ゆたか通勤寮

利用者Aさん
私の平和への思い

今のきもち。2月24〜25日にキエフにミサイルこうげきばかりははじまりました。で、ニュースをみておどろいた。で、すぐにきづけになってみました。ロシアのミサイルとじゅうが一般人の住んでるところにむかってうちこまれて、たくさん的一般人子供をかんけいなくこうげきされているので、ほんとうに一日でも早く戦争がおわって、ウクライナに平和と暮らして希望とえがおと幸せが一日でも早くもどってほしい気持ちでいっぱいです。暮らしてはもどるのは時間がかかるけど、ウクライナの人達はつよいので私もウクライナの力になりたいです。だからずーつとおうえんとぼきんとかしたいです。人のいのちは1回しかないのにながあっても命はぜったいにうばってはいけません。

ゆたか作業所
ボランティア紹介

若松 恵美子さん

はじめに

ゆたか作業所のにぎわい作業現場では、毎年七月になると浴衣や甚平を着て写真を撮る取り組みを行っています。浴衣の着付けや、髪飾りを付けたりするのは、長年お世話になっている美容師の若松さんです。

若松さんとの出会い

最初に若松さんにお世話になったのは約二十年前でした。当時つゆはし作業所では、「ほかほかせっけんの営業や配達に行くときの身だしなみを整えましょう」というキャンペーンを仲間たちと行いました。その中で「身だしなみてなに?」「ふさわしい化粧ってどうやるの?」という質問が仲間たちから出されました。そこで知り合いの若松さんに相談すると「いいよ。行くわ!」とすぐ来てくださり、仲間の身だしなみやメイクアップ教室などを行いました。その後も成人式を迎える仲間の着付けや、ハサミや髪を切る感覚が怖くて美容室に行けなかった仲間のために来てくださいました。何度もおいでいただき、会話を重ねるなかで髪を切ることが出来るようになった仲間もいました。

取り組みがつながって

ゆたか作業所への異動後もこの関係はつながり、取り組みの外出に同行していただいたり、写真を撮ってもらったり、見守りをお願いしたりするようになりました。ある日、仲間が取り組み先でサイズが合わずにドレスが

着れなかった話をすると、「美容室の撮影用のドレス持っていくわ」とティアラや付けまつげなども一緒に持ってきて、メイクや



セットアップまでやってくださいました。他の仲間もドレスを着て撮影をして大喜びでした。

これからもよろしく

若松さんは仲間たちとたくさん関わるうちに「もっと障害者のことを知りたい!」とガイドヘルパーの資格を取得したり、ホームの仕事をしています。ご自分の美容室でも、なかなか美容室に行けない障害者の方を積極的に受け入れたりしています。

先日はにぎわい作業現場の仲間がお亡くなりになったことをお伝えすると、たくさん写真データを基に素敵なフォトブックを作成してくださいました。「もっといい笑顔が撮りたい!」「次は仲間たちと何が出来るかな?」と高価なカメラに買い替えて日々考えているそうです。

これからもずっと仲間たちの素敵な笑顔を通して、関係づくりを深めていけるといいと思います。

松永 誠司



コロナの中でも工夫して ～日々の暮らしに彩りも～



みんなでワッショイ!ダンボールリレー

運動会に向けては実施するにあたり、「仲間達の趣向が活かせるものによろしく」という事を念頭に、アンケートを複数回、実施しました。中でも楽しみの1つに「トロフィー」があり、優勝トロフィーの授与が仲間達に浸透しているのだと知りました。今回優勝した「あすなる班」が、万歳をしながら嬉しそうに受け取られているのが印象的でした。

またコロナ禍の中では、感染防止の観点から現場活動の縮小
運動会に向けては実施するにあたり、「仲間達の趣向が活かせるものによろしく」という事を念頭に、アンケートを複数回、実施しました。中でも楽しみの1つに「トロフィー」があり、優勝トロフィーの授与が仲間達に浸透しているのだと知りました。今回優勝した「あすなる班」が、万歳をしながら嬉しそうに受け取られているのが印象的でした。

や男女別での活動などが続きましたが、昨年12月より全班、男女合同の活動を再開しました。半年たった今回の運動会では現場集団の集大成として、各班の特徴を感じさせるような箱の装飾、競技中の仲間を応援する姿や、表彰式で喜び励ましあう姿などが見られました。

正直、運動会については「全員で集まるのは危険ではないか」と言った声もありました。全員で集まることのできる喜びよりも、心配の方が強くなっているのが現実なのだと感じました。

今年度は施設方針でも掲げていますが、制限がある中でも仲間達の願いを叶えるにはどうしたら良いか、法人が提示しているガイドラインを基に、ゆたかな暮らしの実現、楽しみを保証できる支援を今後も検討していければと思います。

富永安理沙

ゆたか希望の家

5.25

運動会開催

～3年ぶりに開会式・表彰式も全員で～

リサイクル
みなみ作業所

6.17

「ちよつと早い夏まつり」開催

当日は名前のごとく、まつりにちなんだブースを作業所内で用意し、4グループに分かれて楽しむ企画でした。

コロナ禍以前は、繁忙期前のこの時期には「日帰り旅行」などを行ってききました。ところがここ数年は、給食でいつもと違うお弁当を食べたり、グループに分かれて上映会を企画したりという取り組みになりました。

そんな中、利用者の皆さんから「ちよつとも出かけねん」「今度こそ日帰り旅行に行けるね」など、行事を待つ声が高まりました。企画を準備しつつも、日々の感染状況に右往左往し、土壇場で今回の取り組みとなりました。

まつりの内容は千本引き、射的、休憩室にこれまでの日帰り旅行の動画を用意し、順番に楽しむ企画などです。千本引きでは、みんなに必ず当たるよう景品を用意しました。翌日、景品でゲットしたTシャツを着て出勤する仲間の姿が



ヨーヨー釣り～童心に帰って～

ありました。

ヨーヨー釣りは、工場内にプールを用意し、身体障害のある方にもゆつたり楽しんでもらえるように工夫しました。射的の的は「作業で分別する際、必ず除去しなくてはいけないもの」にして、大盛況！何度も最後尾に並びなおす人もいました。

童心に帰り、楽しむ皆さんの姿や豪華な昼食。笑顔がほころび、「明日からも仕事がんばろう!」「繁忙期を乗り越えよう!」と、力強い意気込みを聞くことができました。

中垣由香

防 災 訓 練



貴重な AED 体験



たくさんの方々のご協力に感謝

地域の
ホームを
目指して

ゆたか生活支援事業所みなみ「エールⅠ・Ⅱ」

はじめに

事業所みなみでは、毎年学区の消防団にご協力いただきながら防災訓練を行っています。以前は、交流も兼ねて地域の方にも参加していただき、訓練後にカレーライスや豚汁を振舞っていました。コロナ禍になってからは、以前のような交流はできなくなってしまうましたが、防災訓練だけは毎年続けることができています。2015年にエールが開設してからずっと続けて行っているのですが、今年では消防団の方から気にかけて声をかけていただけるようになりました。

体を使って初体験

今年度はポンプ車2台、指揮車1台の計3台がエールの駐車場に集まりました。南消防署の方からは、そ

れぞれの車の説明や防火服への早着替えなど見せていただきました。なかまや職員も防火服の体験をしたり、水消火器で消火訓練を行ったりと、聞くだけではなく実際に体を使って参加しました。

AEDの使い方や心肺蘇生法などもご指導いただき、新しく配属になった職員を中心に学ぶことができました。初めて参加した職員からは「心肺蘇生やAEDなど、やり方を聞いていても実際にやってみるとわからないことが多かった」「心肺蘇生法などはやり方が変わっていくので、定期的に確認出来ていいと思う」など、参加する中での発見がたくさんありました。

「知ってもらおう」
ことから始める
関係づくり

グループホームは夜間帯に少ない職員で支援をすることも多く、万が一の時に誰でも対応ができるように防災訓練を通して学べたらと思います。また、緊急時の対応だけでなく、消防団や地域との交流も大事な役割

の一つです。「ここに支援が必要な人がいる」ということを地域の人に知ってもらい、助け合えるような関係を築いていく必要があると思います。

最初は消防団と職員だけで利用者を避難させるところから始まった訓練は、ポンプ車や放水訓練で消防署が関わり、炊き出し訓練では区役所の職員さんにもご協力いただきました。こうして少しずつ関係を広げていき、地域の中のグループホームとして運営が出来つつあるのかなと思います。

仲間もなかなかイベントや取り組みが行えない中、外に出て消防車を見たり、消防署の職員さんとお話をしたり、我慢が続く日常の中に少し刺激があったのではないかと思います。コロナ禍で思うように地域交流も行うことが出来ませんが、しっかりと対策を講じながら今できることを考え、続けていくことが大切だと思います。

今後は、事業所みなみだけでなく元塩地域の事業所と連携を取りながら、防災訓練や地域交流など企画が出来たらと思います。

杉本 雅明

2022年度 \\ 正規採用職員紹介 \\



ケアサポート宝南 みさか みほ 三坂 美帆
 趣味・好きなこと…家族旅行、コーヒー

総合病院で医療ソーシャルワーカーをしておりました。入院中の患者様の支援をさせていただく中で、病気や障害を抱えながらも患者様から「やっぱり家で生活したい」という思いをお聴きし、その人らしい在宅生活のサポートがしたいという気持ちが大きくなりました。ひとりひとりを大切に、地域に暮らす誰もが安心して暮らすことを目指すゆたか福祉会に魅力を感じて入職を決めました。

まだまだわからないことが多いですが、利用者様の思いを大切に、柔軟に学び、地域と手を結び、精一杯頑張っていきたいと思います。



6月

- 10日(金) 食と健康推進委員会
 11日(土) 理事会
 14日(火) 事業運営推進会議
 15日(水) 安全運転講習
 16日(木) ハラスメント対策委員会
 17日(金) 新所長研修
 21日(火) 広報・ホームページ編集委員会
 22日(水) 所長会議
 23日(木) 就労支援事業推進委員会
 24日(金) 安全運転講習/
 権利擁護・虐待防止会議
 26日(日) 評議員会
 29日(水) きょうされん愛知支部
 名古屋市懇談
 30日(木) 研修部

表紙の作者紹介

「夏の夜」 みらいろ 共同制作

「みらいろ」は新たにまーぶるホームからの仲間が加わり、3班に分かれて活動をしています。

仲間から「ちぎり絵がやりたい」と手があがり、夏をイメージした作品を3班合同で作りました。「スイカ」「夜空」「花火」をどの班で担当するかを決め、細かく色を選んで線に合わせながら貼りました。ちぎった折り紙を下絵に当て「何色を貼ろうか」と悩みながら作る姿が印象的でした。完成した作品を各班で発表し「キレイだね」と喜ぶ姿も見られました。

今回初めて共同作品を作成しましたが、折り紙をちぎることが得意な方や、のりを塗ることが上手な方など、得意なことを活かして素敵な作品が出来ました。これからも「季節に合わせた作品を作成していきたい」と仲間と話しています。



じょぶ班



しゃぼん班



さくら班

一般寄附(6・7月)

篠山 治人 数納 幸子 鏡味千代子

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

(6月2日～7月15日手続き分) 順不同敬称略

星野 信子	戸塚やよい	岡田多津子	清水 晶子	おもちゃ図書館ぴっころ
野原 信一	笠原 悦雄	石元 憲明	梶田まゆみ	社会福祉法人あずま福祉会
篠原 直人	鬼頭 宏	横井 雅幸	清水 悦子	おおぞら作業所
高橋 利浩	尾関 啓子	浅田 悦男	平國 哲	東洋病院
中西 和子	浅海 正義	吉野多賀子	神谷 恵子	らいぶ 施設長 井出信男
伊藤 順子	中園 加奈	高橋 正教	近藤 直子	株式会社丸菱
後田 剛	野田 茂明	鈴木 徹朗	渡辺 正春	内田紙店
鈴木 隆介	毛利 登	杉浦 博	脇田 武子	三和化学産業(株)
山田 国明	横井 脩	生駒 悦子	武井 欽子	中日印章印刷(株) 林克己
永井 満	住友 陽子	村松 敦子	野間 聖子	学校法人葵学園 認定こども園
一柳 裕子	浅野 清高	石川 修	鏡味千代子	葵第二幼稚園
杉浦 達男	山田 清文	数納 幸子	山田 哲也	設楽測量設計(株) 加藤博俊
中武 繁治	市川 恵子	高橋香与子	遊佐 和美	社会福祉法人たからばこ
川上 雅也	小田切龍三	土井ちづ子	今井 信彦	ナグラサービス株式会社
圓尾 博之	山崎 辰雄	渡邊 洋子	糠谷 彰洋	港北幼稚園
堀江まる子	田畑 博	井出 由紀	飯田 章代	(有)坪井電機 代表取締役 坪井賢三
近藤左千夫	池田 栄一	佐藤 博宣		近藤産興(株)
高森 裕司	原 史江	藤田 有紀		
杉浦登志子	稲垣 雅代			

※利用者・保護者・職員の方からのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

広報・475号

2022年8月号(2022年8月10日発行)
 定価1部100円
 法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
 発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
 印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会費 = 年間1口6,000円、
 賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
 ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとりが主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部

法人本部 ☎ 052-698-7356
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) ☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区) ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター
障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所 ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン
ゆたか生活支援事業所尾張
ケアホーム徳重 ☎ 0568-22-8587
ケアホーム北野 ☎ 0568-68-8844
ケアホームあかつき ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

第2ゆたか希望の家 ☎ 0536-65-0370
グループハウスなぐら
デイサービスなぐら【高齢】
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
デイサービス宝南 ☎ 052-618-0205
グループホーム宝南の家 ☎ 052-613-5081
ケアサポート宝南【相談】 ☎ 052-613-6055

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】 ☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
つゆはし板倉ホーム ☎ 052-354-0678
上脇ホーム ☎ 052-352-3266
あおなみホーム ☎ 052-355-9339
サテライトあおなみ
ホームみらい ☎ 052-383-5580

ゆたか生活支援事業所みなみ

グループホーム エール ☎ 052-619-6052
エールI・エールII
ホームみのり ☎ 052-612-9480
元塩ホーム ☎ 052-614-4691
サテライト元塩 I・II
第二八光荘 ☎ 052-612-3986
まーぶるホーム ☎ 052-691-0161

ゆたか生活支援事業所かさでら

第1かさでらホーム ☎ 052-618-7171
第2かさでらホーム
ひいらぎホーム ☎ 052-611-6955
粕島ホーム ☎ 052-824-9590
ひろめホーム

ゆたか生活支援事業所なるお

ほしぎきホーム ☎ 052-825-4359
ゆたか鳴尾寮 ☎ 052-613-3021
鳴尾ホーム ☎ 052-611-3588
第一八光荘 ☎ 052-614-4345
わかばホーム ☎ 052-614-2785
あさがおホーム ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり

大清水ケアホーム ☎ 052-876-8820
なるみホームひまわり ☎ 052-893-7575
かきつばたホーム ☎ 052-680-7777
みずひろホーム ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた

第1ホーム白鳥 ☎ 052-671-0067
第2ホーム白鳥
第3ホーム白鳥
第1ゆたかホーム太陽 ☎ 052-691-4004
第2ゆたかホーム太陽
明治ホーム

その人らしく 働く 暮らす

Vol.103

仲間

「自分のことは自分で」

グループハウスなぐら 増田悦子さん



平成11年8月、悦子さんは「グループハウスなぐら」の開所と同時に入所されました。

それまでは「デイサービスのみ」に通って見えました。その当時お世話になった仲間や職員との繋がりを大切にされ「20年以上たつた今でも訪問や連絡がある」と、とても嬉しそうに話しています。

入所時にはいろいろな介助が必要な状況でしたが、「自分のことは自分でやる」を目標にリハビリ訓練に取り組み、自分で食事を摂ることや、つかまり立ちができるようになりました。

今では天気予報を確認して、翌日の衣類を準備するのが日課となっています。「前よりゆっくりにしかできなくなった」「できんかったら、言うからお願いな」と笑って言われます。また日中活動では、毎年開催されているポッチャの大会で一つでも

多く勝てるように真剣に練習に取り組んでいます。

昨年、「まーぶるホーム」への移動の話がありました。「名古屋のホームに移ると大好きな松山千春のコンサートにも簡単に行くことができるし、何よりも生活の質を上げることができるところでは…」と心配する職員をよそに、悦子さんは即決で「今、しあわせだから」と福祉村で生活することを決断されました。

今年70歳になりますが、これからもいろいろなことに挑戦していく悦子さんを応援していきたいと思えます。 松平 真奈美



ポッチャは負けたくありません

職員

「ひとりひとりに合った支援を」

第2ゆたか希望の家 真下明



ゆたか福祉会に入職したのは、大学の就職活動中に知人から「長く働

ける職場」として紹介してもらったことがきっかけでした。

第2ゆたか希望の家に正規職員として入職し、早くも1年が経ちました。現在は、作業所班に所属し、仲間の木工作业の仕事のサポートや、生活における身の回りの支援をさせていただいています。

入職した際の頃は、右も左もわからずに悩んだり、どう仲間と関わっていけば良いかわからないことばかりでした。そんな時、先輩方からのアドバイスや仲間から私に歩み寄ってくれる方もおり、それがとても嬉しく救われるような気持ちでした。

2年目になり、少しずつ仲間との関係性が築けていることを実感できるようなりました。まだまだ支援で悩むことは多々ありますが、「なぜ」このような行動をするのだろ

う「もっと良い支援方法があったのではないかと考えていくことが支援者として大切なことだと感じています。

また、仲間もひとりひとり性格や育ってきた環境、障害も違います。ひとりひとりに合った支援を意識していきたいです。

現在福祉村では、「コロナ禍で外出がほとんどできない状況にあります。そんな中でも施設内でコンビニ店を開いたり、その他にも様々なイベントを行い、仲間の皆さんに楽しんで頂いています。これからも仲間がのびのびと豊かに生活できるように日々精進していきます。



仲間との糸の作業